

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
- 2 事例報告学校名：日高町立門別小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 立石 晃
- 4 キーワード：地域素材を生かした教育課程・PTA連携

1 はじめに

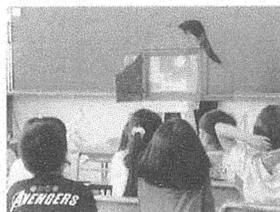
本校は近隣の七つの地区（旭町・幾千世・緑町・庫富地区、門別本町地区、泉町地区、若草・富丘地区、富川東6丁目地区、緑が丘地区、豊郷・清島地区）の子どもたちが通う学年1クラスの小規模校である。校舎の隣には牧場があり、馬産地としての日高を象徴する風景が広がっている。地域や保護者は学校に協力的で、運動会に向けての環境整備や準備に積極的に参加している。また、牧場の仕事に従事する保護者が多く、その中にはインドやフィリピンから外国人労働者として定住している保護者もいる。

現在の児童数は117人で外国籍の児童は8人在籍している。外国籍の児童については、日本語指導が必要な児童もあり、富川小学校在籍の教員が週2回巡回指導に来ている。

2 地域と連携した教育活動

(1) 読み聞かせ活動

本校では、毎週木曜日の朝自習の時間に「えほんのとびら」という読み聞かせグループによる読み聞かせを行っている。1、2年生は月に2回から4回程度、その他の学年は年に2回行っている。「えほんのとびら」は門別小学校の保護者と卒業生の保護者、地域のメンバーで構成されている。子どもたちはとても楽しみにしており、学習が始まる朝の時間に集中して読み聞かせを聞くことで、1時間目から気持ちを穏やかにして授業に臨むことができています。



(2) 地域素材を生かした学習活動

本校には酪農業を営んでいる家庭がいくつかあり、そのうちの1つの家庭が出前授業を行ってくれたり、牧場を見学場所として提供してくれたりしている。本物を見て、触り、感じることは、子どもたちにとって最高の学びである。ここ数年間継続して行われている取組で、指導してくださっている保護者も「子どもたちのために」と意欲をもって協力していただいている。

① 2年生 牛の命の誕生と成長について

今年度は9月に2年生の教室で行われた。まず、牛の出産について写真を見たり、出産に立ち会った保護者から話を聞いたりすることから始まった。牛が出産してから1時間程度で立ち上がることや、頭から出産しないと子牛の生死に関することについて、子どもたちは真剣な表情で聞き入っていた。その後、搾乳の方法や牛の1日を写真や動画で学ぶことができた。また、搾乳機や子牛の哺乳瓶の実物を直接見たり触ったりすることもできた。子どもたちに命の大切さや酪農の仕事について知ってほしいという保護者の思いと本校の子どもたちの学びのねらいが合致した取組となっている。



② 3年生 牛の牧場見学

2年生で牛の命と誕生について学ばせていただいた酪農の方が自宅の牧場を見学先として提供してくださっている。ここでは、毎日給食で飲んでいる牛乳がどのようにして出荷されるかを学んでいる。搾乳された生乳を冷却貯蔵するバルククーラーからミルクローリーへ積み込んでいく様子や、コンピュータ制御による餌やりの様子を見学させていただきました。また、実際に牛に触れたり、餌やりを行ったりすることで食べ物の大切さや酪農の仕事の大変さについて再認識することができている。



(3) 農業に関わる仕事を知るふるさと学習

J A門別町とミニトマト農家にご協力いただき、ミニトマトの選果場を見学している。門別地区では、収益性が高い作物として、2022年度からミニトマトの栽培を本格的に行っている。子どもたちは、担当の方から、ミニトマトの栽培について説明を受けたり、ビニールハウス内の設備等の見学を行ったりしている。また、出荷作業を行っている場所では、ミニトマトが商品として出荷されるまでの工程を見学することができ、食卓に上がるまでにいろいろな人たちの作業や手間がかかっていることも感じ取ることができている。地元の農産物については、社会科で学習を行っているが、実際に栽培に関わる人や場所に触れることで、栽培の苦労や喜びを知ることができている。

3 PTAや地域との連携

(1) 運動会前の環境整備及び運動会

本校PTAの体育委員会を中心として、運動会前日にグラウンド周辺や保護者駐車場の草刈り及びテント設営をお願いしている。保護者の皆様の積極的な参加もあり、運動会に向けた準備を滞りなく進めることができています。教職員数が減少する中、保護者の手伝いは大きな力となっている。また、教職員や係の子どもたちと連携を取りながら用具係や審判係、記録係などの係も一部保護者に担っていただき、競技のスムーズな進行の一助となっている。



(2) CS門別（柏葉学校運営協議会）の活動

門別地区の学校運営協議会は、令和7年度に厚賀中と門別中が統合したため、今年度から門別小、門別中、厚賀小の3校の委員で構成されている。コロナ禍においては、本格的な活動を行うことができなかったが、今年度より各学校からの要望を吸い上げ、子どもたちにできることを計画・周知し、参加できる地域や保護者の方を募る形で活動を行っている。具体的には、これまで取り組んできた通学路の草刈りの継続や英検の監督見守りなどが提案され、実施に向けて動いているところである。

4 おわりに

本校校舎は今年度で50年を迎える。ここで紹介した地域とのつながり以外にも、門別の地域素材を活用した学びを積極的に推進している。令和11年に新校舎の改築が予定されているが、新たなスタートとなってもこれまでの地域との関わりを保ちつつ、子どもたちにとってよりよい教育活動を推進していきたい。そのためにも、学校の情報発信や関心をもってもらう取組を継続していき、新たな地域人材や地域素材の発掘につなげていきたいと考えている。